

阿久津ネギ(阿久津曲がりネギ)

1, 解説

本種は、郡山市阿久津地区で改良馴化されたネギである。

地元生産への聞き取り調査によると、明治30年頃(約110年前)に同地区の武田鹿太郎氏が富山の薬行商人から譲り受けた種子を栽培したのが始まりと言われ、その後、選抜改良が進められてきた。

葉稍部、葉身部ともに柔らかく、食味が優れると評価されている。

えり首部のしまりはやや粗く、葉が扇状に広がる。越冬中は地上部が枯れるが、「源吾」に比較して枯れ上がりの程度は少ないとされる。

これらの性質から「加賀群」に属すと考えられるが詳細な調査はなされていない。

郡山女子大で実施したアミノ酸分析結果では、総遊離アミノ酸量が現行の1本ネギと比較して1.5から2倍程度あり、糖度(Brix)も3~4高かった。

同地区の土壌は、粘土質が多く水害の影響を受けることもあり、8月頃に斜めに植え、少ない土量で軟白部を確保できる「曲がりネギ」にしている。

2, 写真



苗の状況(11月)



苗床の様子



収穫期の草姿(葉が扇形に広がるのが特徴)



収穫期の草姿



越冬中の苗



越冬中の様子（出荷可能な状態）



越冬中の様子



曲がりネギの荷姿
（写真は源吾ねぎ）

3、遺伝資源の栽培および保存状況

- ・平成17年度に「阿久津曲がりネギ保存会」を設立し種子の保存に向けた取り組みを行っている。
- ・種子の販売は郡山市内の有限会社吉田農園で行っている。